

## 平成 19 年度香川大学大学院及び専攻科修了式 学長告辞

本日、ここに多くの関係者の出席のもとに平成 19 年度香川大学大学院及び専攻科の修了式が行われることは我われにとって大きな喜びであります。大学院の博士課程と修士課程、並びに専攻科の修了生諸君、さらに論文博士の学位を授与された方の総計は 290 名であります。博士の学位を授与された 22 名、修士の学位を授与された 206 名、専門職学位を授与された 55 名、専攻科を修了した 7 名の皆さん、ほんとうにおめでとうございませう。心からお祝申し上げます。

修了生のなかには海外からの留学生 27 名も含まれています。留学生にとっては、日本の文化や習慣への適応という課題を乗り越えての成果であり、その努力は並大抵のものではなく、改めて祝意を表したいと思ひます。また、香川大学、愛媛大学、高知大学で構成する愛媛大学大学院連合農学研究科博士課程において、本学の教員の指導を受けた 6 名に去る 3 月 19 日に博士の学位が授与されたことを申し添えておきます。

君たちの勉学と研究に対するたいへんな努力と熱意が大きな成果となって実を結んだことを君たちと共に喜びたいと思ひます。また、学生諸君の指導に温かい情熱を持って当たってこられた指導教員の方々に心から敬意を表します。

君たちは、2 年間または 3 年間、課程によっては 4 年間であり、また修士課程から数えれば 5 年間の人もいると思ひますが、いずれにしてもかなりの年数にわたる研究活動の成果を学位論文などとしてまとめあげ、博士または修士、専門職学位という学位を手にすることができたわけだ。博士の学位は今や研究者としての必携の資格のようになっています。また、自然科学系の分野においては、修士号の取得によって初めて専門性を主張できるとの認識もあります。本学における専門職学位のひとつである経営修士(専門職)は、地域の活性化・自立に資する教育の質を保証するものであり、もうひとつの専門職学位である法務博士(専門職)は地域を支える法曹の質を保証するものであります。

ここで君たちが忘れてはならないのは、また最も大切にしなければならないのは、たった今手にした学位と言う資格ではなく、今日までの過程で学習し、身につけた学ぶ力であり、課題探求力であるはずだ。私は、本日付をもって諸君らの学位の質を保証しました。さて、卑近な例ですが、運転免許証を取得してから 2 年も 3 年も車の運転をしなければ、運転能力が低下するのは明らかだ。学位と言う資格を取得しても、学ぶ力と課題探求力を日常的にみがき、向上

させる努力を継続しなければ、社会の期待に応えられないのは当然であります。明日からの新しい環境のなかで学ぶ力と課題探求力を十分に養われることを期待しております。

さて、温暖化に代表される地球環境の劣化は我われが解決しなければならない大きな課題であります。国内だけを見ても異常気象に関連する情報は多く、例えば昨年夏には国内の101の地点で観測史上最高の気温を記録し、東京都心ではこの100年間に気温が3度上昇しました。また、南方系の魚であるサワラが東北地方で水揚げされました。この50年間にカエデの紅葉が2週間遅くなったと言われていました。さらに、水温が1度上がれば、瀬戸内海も亜熱帯域になるとの予測もあります。

一方、世界の人口は毎年8000万人ずつ増加しており、67億人近い人びとの食料不足はエネルギー価格の急騰によるバイオマス生産の増大の影響を受けてますます深刻になっています。鳥インフルエンザなどの疾病への課題も残されたままです。安全・安心な食料への期待はとりわけ大きいものがあります。地域社会に目を移しても、地域社会の活性化をはじめ、進行しつつある少子高齢化社会に起因するさまざまな課題があります。

このような課題に解決の方向を示すのは、学術研究に係わる者の社会的使命でもあります。また、それらの課題に新しい視点で挑戦し、解決の方法を提示できるのは君たち若者の特権であり、喜びであると思います。私は、君たちの挑戦に大きな期待を持っています。

留学生諸君、君たちが日本と君たちの母国との交流のかけ橋になり、ひいては香川大学の国際交流に貢献してくれることを希望しています。また、連合法務研究科の修了生には乗り越えなければならないハードルがせまっていますが、共に祝杯をあげられる日を楽しみにしております。

本日学位を取得された諸君が、与えられた新しい環境のなかで努力を継続し、大きな花を咲かされることを期待し、告辞いたします。

平成20年3月24日  
香川大学長 一井眞比古